

かねばならない重要事項がある。それは地図の間違いである。田代山からほぼ真南に下った迷沢(仮称)とジャクジ沢との出合は、地図にあるよりもずっと上流で、オオイデ沢との出合よりも上部であることである。現地を訪れると、一見して明らかでない間違いであるが、今後この地域に入る人達のために注意を喚起しておく。

(記・

[タイム] 田代山登山口(7:15)→太子堂(8:30)→迷沢下降点(8:40)→林道(10:05, 10:20)→下降終了(10:35)

ジャクジ沢

1985年9月7日

L

オオイデ沢の入口部分の偵察を行なったあと、11:25ジャクジ沢の遡行開始。出合から少し遡った所に5m程の滝があり、これは幸先がよいと喜んだのであるが、工事中の林道を越えた先からは、全く平凡な沢となってしまった。おまけに地図にははっきりと水線のひかれている右俣の出合も、その時ははっきりそれと確信できないほど貧弱なもので、首をひねりながらの遡行となる。

沢の分岐を左へ左へと進み、13:50遡行終了。飛びでた所は帝釈山と1898m独標との鞍部から少し帝釈山方面に登ったあたりであった。(記

[タイム] ジャクジ沢遡行開始(11:25)→終了(13:50)→帝釈山(14:15)→太子堂(15:15)→田代山登山口(16:10)

## 2. 那須・男鹿の沢

### 阿武隈川源流域の沢

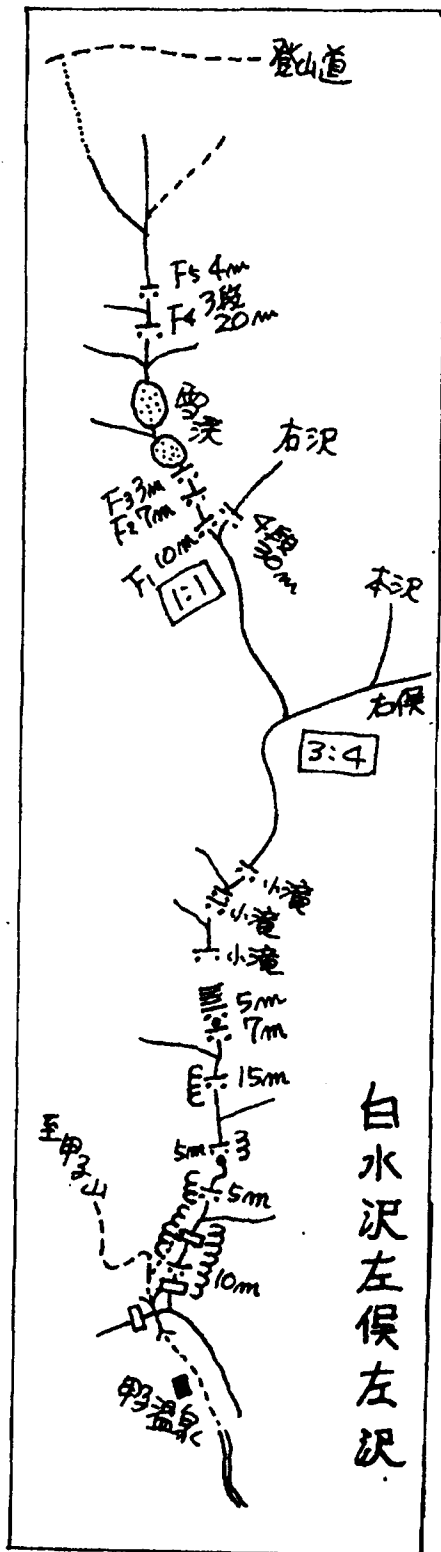
この地域の沢については、すでに会報のNo 6, 8, 19で、そのほとんどの沢をとりあげてきた。ここでは、まだ未収録の沢2本の記録を紹介する。

白水沢左俣左沢

1985年6月8日

L

前夜に福島を発って、甲子温泉の手前でテント泊する。一里滝沢に入る西さんらのパーティと甲子温泉で別れて、白水沢に入る。右手に白水沢最初の砂防ダム



を見ながらウェディングシューズに履きかえる。ここからは新しい砂防ダム工事のため、右岸に足場が組んであった。その足場を使ったので、F<sub>2</sub>は見るだけで通過する。新しい砂防ダムに降りて、いよいよ沢を進行することにする。

進行開始後、すぐ左岸から沢が入る。F<sub>2</sub> (5m)を越すと、沢は左にカーブし、釜をもったF<sub>3</sub>が現われる。左岸を登って越える。左岸から沢が入ると、今度は15mはあろうかと思われるF<sub>4</sub>(衣紋の滝)が目の前にせまる。沢登りシーズンの初めなので、無理をせず右岸を捲く。

この先次から次へと適当な滝が出てくるので、あきることはない。右岸からヒョングリ状の滝をもった小沢が入り、次に7m、5mの滝、さらにナメや小滝などが続くが、いずれも直登できたり、簡単な捲で越すことができる。やがて、沢は1~2mの滝が出てくる程度となり、右俣との分岐に着く。

水量は3:4で右俣の方が多い。私達は、小休止した後左俣に入る。

左俣に入って10分程河原歩きのと、前方に30mもあるスケールの大きなナメ滝が現われる。斜瀑になっていて、上部のナメ床がどこまで続いているのかは、下部からでは確認することができない。そのナメ滝の反対側に、10mの滝がかかって、沢幅をせばめている。今回はこの左沢が目的である。

左沢最初の滝は、右岸の倒木を利用して簡単に登ることができる。次に7m、3mと滝が続くが、直登できる。やがて雪渓が出てく

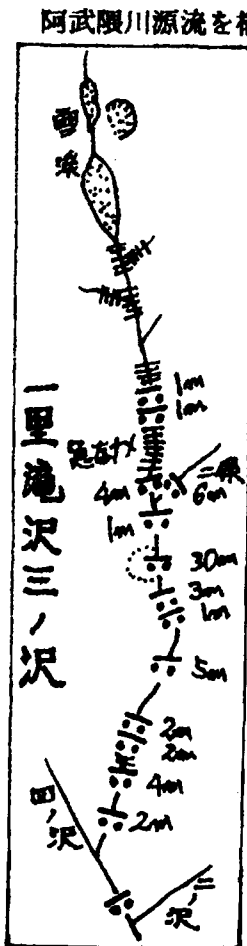
る。まだ6月であり、しかたないだろう。ウェディングシューズだと、地下足袋と違って、そう冷たく感じない。

さらに進むと、3段20mの滝が現われる。岩はすべりやすく、水がまだ冷たいので、多少いやらしい。しかし、3段になっているので、危険はない。この滝を過ぎるあたりから沢は極端に細くなり、源頭の様相となってくる。20分程登ると、水は濁れてしまい、10分程のヤブこぎで登山道に出る。左沢に入って1時間15分で登山道に出たことになる。まだ気温も低く、そそくさと甲子温泉に下る。

(記・

[タイム] 白水沢出合(7:05)→右俣分岐(8:00, 8:10)→右沢分岐(8:20)→登山道(9:35)

一里滝沢三ノ沢 1985年6月8日  
L



阿武隈川源流を構成する支流の一つである一里滝沢は、上部で4つの支沢に分かれる。ここでは、下流部より一ノ沢、二ノ沢、三ノ沢、四ノ沢と仮称することにする。このうち四ノ沢・二ノ沢および一ノ沢の遊行記録は、会報No 6およびNo 19に収録した。今回は三ノ沢の記録を紹介する。

いつもの通り甲子温泉の少し手前にある道路わきの空地に車を置いて出発。林道をたどったあと、阿武隈川本谷を少し下降して一里滝沢出合へ。

7:15遊行開始。一里滝沢は、出合すぐに滝をかけ、沢筋は暗く、出だしの雰囲気は実にいい。ところがこの一里滝沢というのは、最初の滝を越えるとあとは平凡になってしまい、上流になって、いくつかに別れた支沢のうちには大きな滝をかけるものもあるが、二ノ沢のごときは最後まで平凡なままですら終わってしまうのだから、くせものである。さて、今日の目的である三ノ沢はどうであろうか。

9:10三ノ沢出合。左の四ノ沢に比べると貧弱の感は否めず、果して滝が出てくるだろうかと気にしながら出発。

まもなく4mの滝が出てきた。ホールド豊富で簡単に越える。そして、次々に小滝。いくつもの沢を経験した者にとっては、まあ平凡でないというだけのものかもしれないが、果